



あいちサイエンスフェスティバル をはじめよう！

～愛知県で何をやっているのか？～

2011.08.02

あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク
名古屋大学サイエンス・コミュニケーション推進室
コーディネーター(特任助教) 藤吉隆雄



あいちサイエンスフェスティバル

開催概要

開催期間 平成23年10月1日(土)～平成23年11月6日(日)

対象 ひろく愛知県民(県外からの来訪も歓迎)

開催形式 10月を愛知県でのサイエンス月間と位置付け、各種主体が実施するサイエンスイベントが企画参加する形で実施する

場所 愛知県全域(個別会場はそれぞれのイベント主催者が準備)

目的 ひろく愛知県内で、サイエンスへの興味と関心を喚起し、人々の交流と議論の場を生み出す

2011方針

- 名古屋市中心街・栄地区のイベント中心に予算執行
- ネットワーク参加機関の既存イベントがロゴを使用し集合
- 企画参加団体をひろく募るウェブサイトを準備

2012方針(案)

- 参加機関がフェスティバル拠点になる流れを生み出す
- Japan Aerospace2012と連携
- あいちサイエンスコミュニケーション・セミナーと連携

見込まれる効果

集中的なイベント開催により、愛知県内での話題・認知度アップ！
→県内でのサイエンスに対する意識の向上

多くの人が集まる栄地区をショーケース化
→今まで関心なかった人が偶然接触する効果



あいちサイエンスフェスティバル

- ウェブページ開設！
 - 7月18日(月・祝)からテスト稼働開始
 - 8月1日(月)から本稼働開始
 - <http://aichi-science.jp/>



あいちサイエンスフェスティバル

- 誰かの心のなかで、この企画が発生したのは2010年10月10日
- ポスに提案してみたのは、10月下旬(だったはず)
- 12月の段階で一度は企画倒れと決まったはずなのだが.....



あいちサイエンスフェスティバル

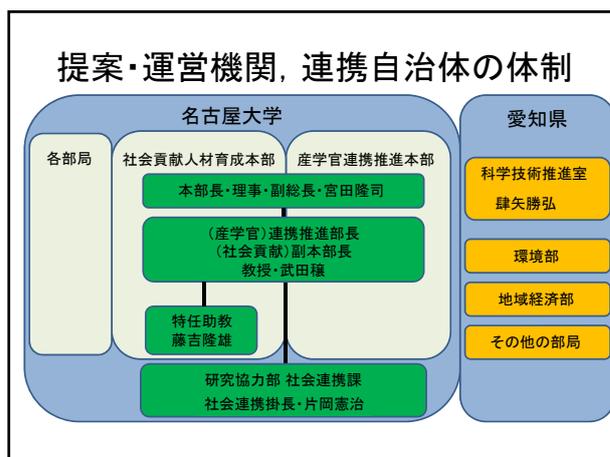
- JST科学コミュニケーション連携推進事業
 - 「地域ネットワーク支援」
 - あいちサイエンス・コミュニケーション・ネットワーク
 - 年間1200万円
 - 平成23年度～平成25年度
 - 実質的には人件費600万円+事業費600万円
 - 平成23年度は人件費を計上せずにセットアップ600万円+事業費600万円を実施
 - サイエンス・コミュニケーション推進室が暫定事務局機能

名古屋大学 サイエンス・コミュニケーション推進室

- 社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センターの下にあります。
- 名古屋大学のホームページのトップからたどってもこの本部を見つけることは(たぶん)できません

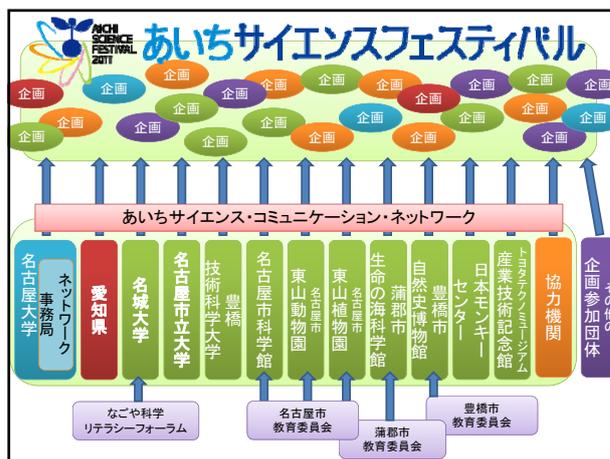
名古屋大学 社会貢献人材育成本部

- キャリアパス支援室
- <http://www.b-jin.jp/>
- 航空機デザイン・ビルドアップ・チーム養成講座
- <http://www.nuae.nagoya-u.ac.jp/dbt/>
- 平成23年度から産学官連携推進本部/工学研究科の共同プロジェクトへ移籍
- サイエンス・コミュニケーション推進室
- <http://www.science.communication.jp/>



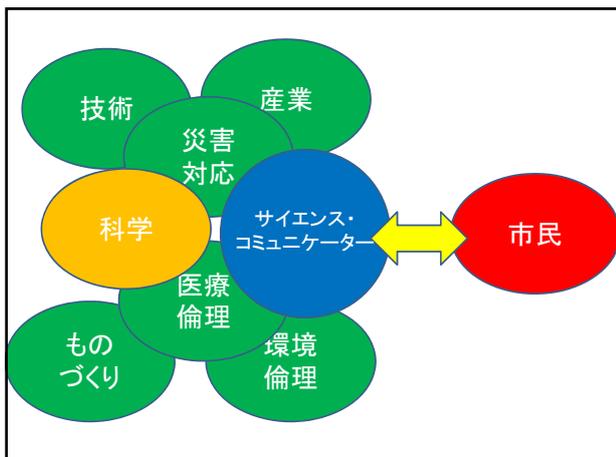
あいちサイエンスフェスティバル 各種主体の参加方法

参加機関 としてネットワークへ参加	<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワーク実行委員会への参加(年3回) ●ネットワーク活動への予算執行可能 ●他の機関と連携して、責任を持って安全に活動を実施する機関
協力機関 としてネットワークへ参加	<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワーク実行委員会への出席可能 ●機関所属者へ招聘旅費等の予算執行可能 ●JST地域ネットワーク支援の参加機関の定めから外れている機関
企画参加団体 としてフェスティバルのみへ参加	<ul style="list-style-type: none"> ●フェスティバルのウェブサイトへイベントを登録 ●フェスティバルのロゴを広報媒体等で利用可 ●ウェブサイトとハンドアウトに企画を掲載
イベント参加者 としてフェスティバルのみへ参加	<ul style="list-style-type: none"> ●個人的にイベントへ(お客として)参加 ●積極的な口コミ効果の発揮を期待



あいち サイエンス・コミュニケーション・ネットワーク

- サイエンスフェスティバルだけをやるわけではありません。
- JSTの要求項目にこたえる必要があります。
- ネットワーク構築
- サイエンス人材育成
- 連携活動
- 支援終了後の継続



愛知県におけるサイエンスを取り巻く環境

- 研究機関と高等教育機関が集積
- 科学技術基盤企業と企業博物館が集積
- 愛・地球博, COP10でNPO・企業が「環境」に注目
- 名古屋市科学館リニューアル
JR東海 リニア・鉄道館オープン

愛知県におけるサイエンス・コミュニケーションの課題

- 1 サイエンス・コミュニケーション活動の連携
 - 1A 資金調達・運営ノウハウの共有と連携
 - 1B イベント参加希望者への情報伝達
- 2 サイエンスボランティア人材の育成・連携
- 3 新たな活動者・研究者・イベント参加者がサイエンス・コミュニケーション活動に参画しやすい仕組みがない

この企画で何をするか？

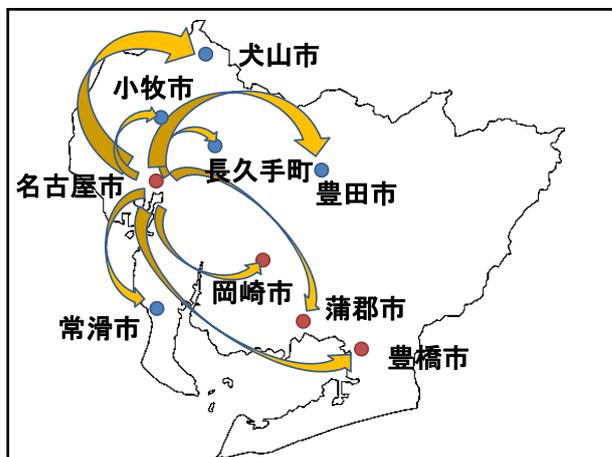
- 1 ネットワーク構築と情報収集・発信拠点の設立
 - 1A ネットワーク構築
 - 1B 情報発信拠点の設立
- 2 サイエンス・コミュニケーターの育成
- 3 サイエンス・コミュニケーションの場としくみの提供
- 4 ロングテール型科学コミュニケーションモデルの開発

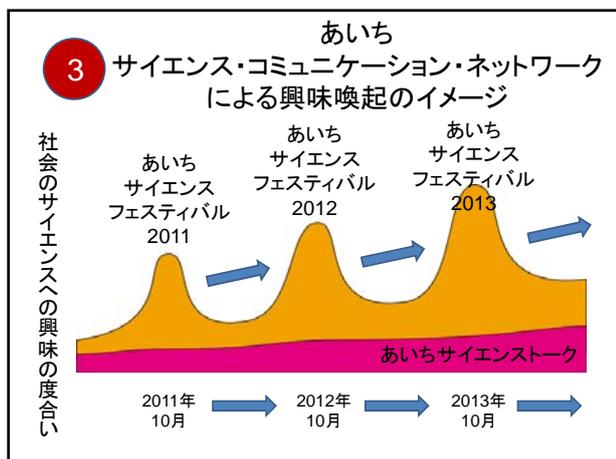
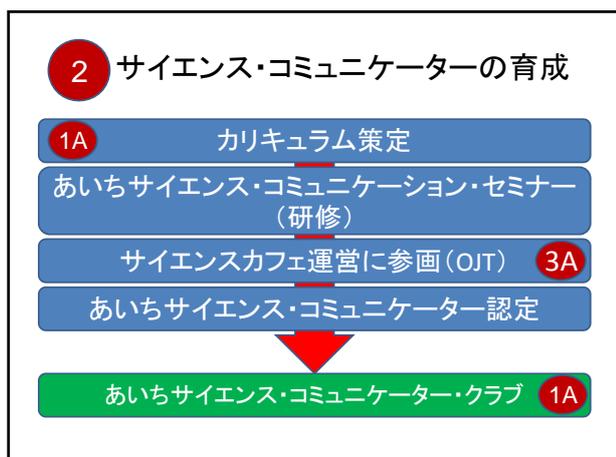
1 ネットワーク構築及び情報収集・発信拠点の設立

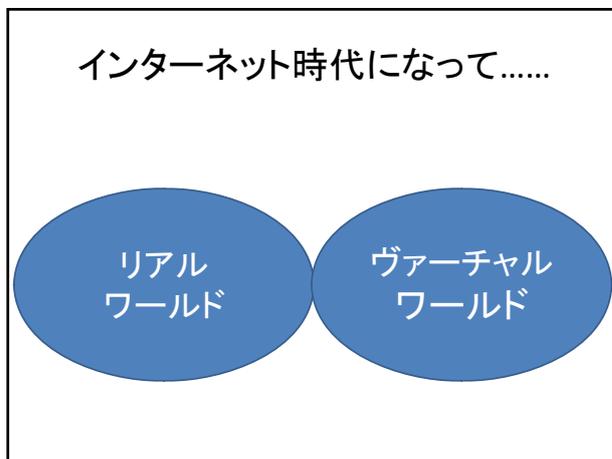
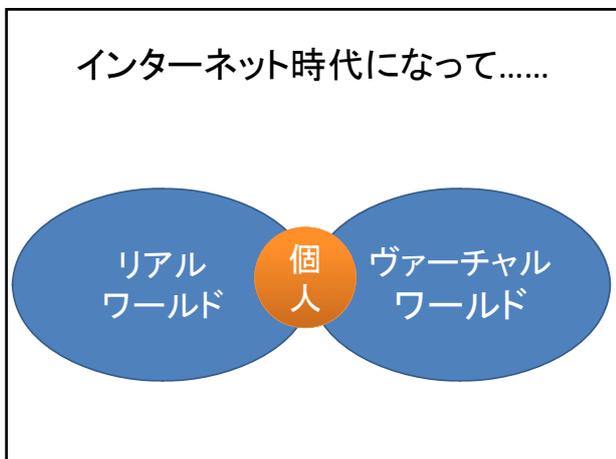
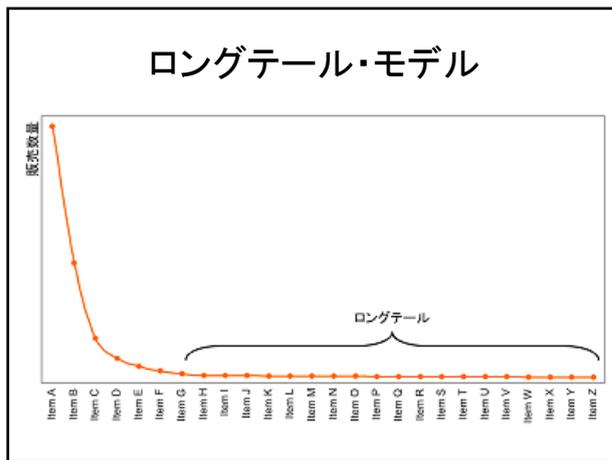
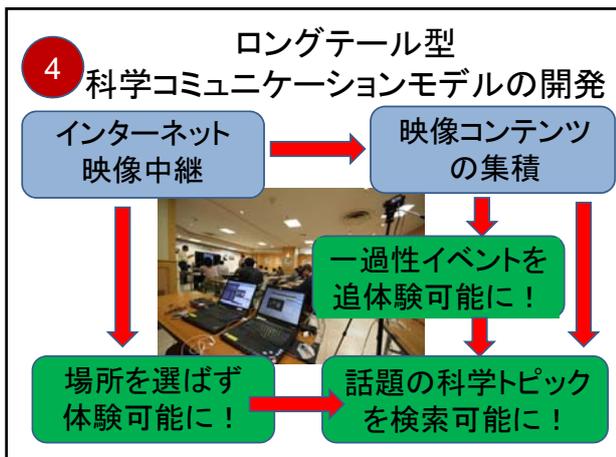
- 1A 事務局機能の立ち上げ
各種機関のネットワーク参加
- 1B サイエンスイベント情報の集約ウェブ構築
NPO等の各種主体のウェブ参加

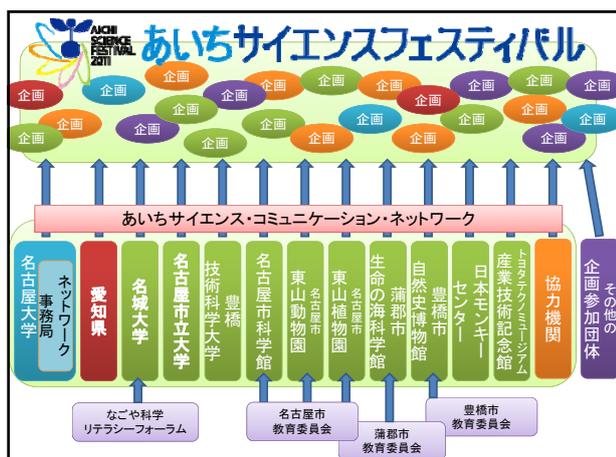
↓

- 組織的・人的ネットワークの拡大
- 2 サイエンス・コミュニケーターの育成







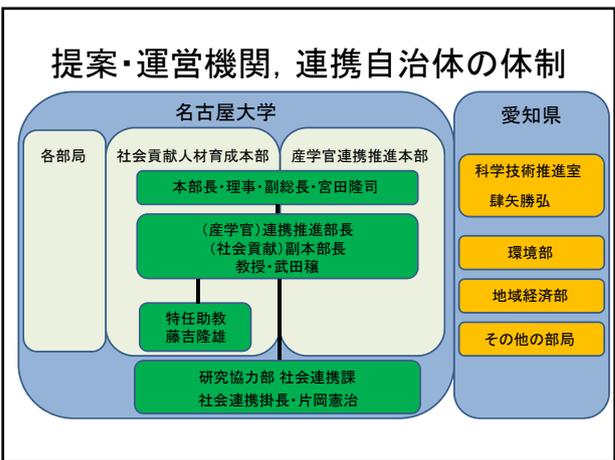


PCST4分類

- 地域におけるサイエンス・コミュニケーション
- 大学におけるサイエンス・コミュニケーション
- 理科教育におけるサイエンス・コミュニケーション
- メディアにおけるサイエンス・コミュニケーション

PCST4分類

- 地域におけるサイエンス・コミュニケーション
- 社会教育的文脈?
- 大学におけるサイエンス・コミュニケーション
- サイエンスforサイエンス?
- 大学への入学者確保?
- 理科教育におけるサイエンス・コミュニケーション
- 社会システムを維持する文脈
- メディアにおけるサイエンス・コミュニケーション
- 科学技術ジャーナリズムの文脈?



互いの足を踏まないように.....

- 社会教育施設
- 大学
- 講演会, サイエンスカフェ, 大学祭
- 研究所等
- 一般公開
- 民間企業

SC活動は無料提供であるべきか?

- 博物館も法的には無料とされているが.....
- 例外規程で入館料を取っている
- 魅力的なSC活動とはなんだろう?
- 面白い, 楽しい, 勉強になる
- 理科教育的文脈の実験教室ビジネスはあるけれど.....

サイエンス・コミュニケーターとは？

- 第3期科学技術基本計画では「職業としてのサイエンス・コミュニケーター」を標榜していたように思えるけど.....
- 第4期科学技術基本計画では、「職業としてのサイエンス・コミュニケーター」というコンセプトは放棄したのか？

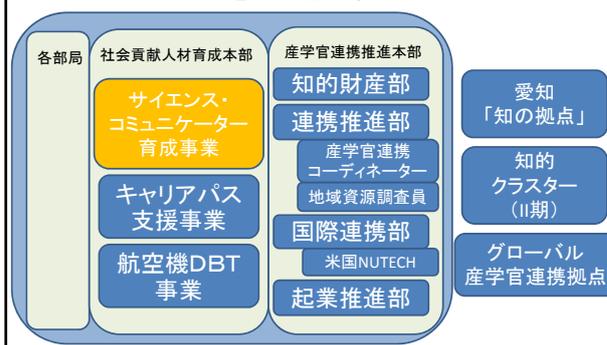
サイエンス・コミュニケーター像の変質？

- サイエンスボランティア人材＝サイエンス・コミュニケーターなのか？
- ボランティア基盤で社会システムを支える次世代人材は生きていけるのか？

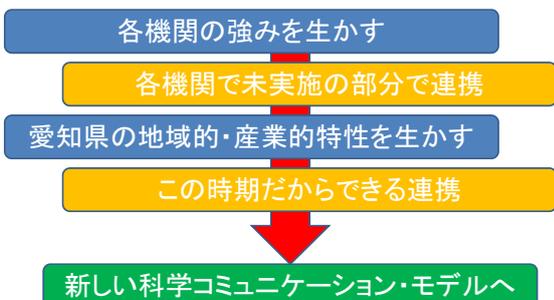
研究者のサイエンス・コミュニケーション活動

- ボランティア基盤？
- 理科教育的文脈のサイエンス・コミュニケーション活動は次世代養成につながる
 - 欠如モデル？
 - 社会システムを維持する活動？
- 社会教育的文脈のサイエンス・コミュニケーション活動は？
 - 双方向モデル？
 - 税金執行上の義務？

名古屋大学でのサイエンス・コミュニケーター育成事業を取り巻く環境



ネットワーク構築の方針



SC人材育成の現状

	各機関の強み	各機関の課題
•名古屋大	<ul style="list-style-type: none"> •研究員として養成 •OTJ中心 •Sciカフェを毎月開催 	<ul style="list-style-type: none"> •愛知県SC事業の終了 •ボランティアとの連携
•名城大	<ul style="list-style-type: none"> •大学の正規科目を設置 •地域貢献活動へ参加 •Sciカフェ的活動を開始 	<ul style="list-style-type: none"> •学生ネットワーク構築
•名古屋科学館 •東山動物園 •東山植物園 •名古屋港水族館 •蒲郡 •豊橋	<ul style="list-style-type: none"> •施設に特化したボランティア養成 •ボランティアの実践の場がある 	<ul style="list-style-type: none"> •他機関ボランティアとの連携 •施設の特性を外れた活動

SC人材育成の現状



Sciカフェ活動の現状

	各機関の強み	各機関の課題
名古屋大 (名大カフェ)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月定期開催 栄のカフェで開催 ネット中継試行 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県SC事業の終了 ボランティアとの連携
名城大 (科学夜話)	<ul style="list-style-type: none"> 2010年度から開催 5回シリーズで1テーマ制 生涯学習センターと連携 演示実験を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 市民ニーズ重視で担当教員の負担大 幅広いテーマを扱うためにネットワーク 広報体制
豊橋技術科学大 (東三河Sciカフェ)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月定期開催 駅前サテライト教室で開催 	<ul style="list-style-type: none"> キャンパスから遠い 個人教員のリソース依存
名古屋市立大 (Sciカフェ in 名古屋)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月定期開催 栄のカフェで開催 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤職員マンパワー
ナノオプト・メディア (ガリレオ・ガリレイ)	<ul style="list-style-type: none"> Sciコンテンツを常置 教授級のファシリテーター 	<ul style="list-style-type: none"> 客層の固定 利益の確保

Sciカフェ類似活動の現状

	各機関の強み	各機関の課題
名古屋市科学館	<ul style="list-style-type: none"> 大きな規模 知名度 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤職員マンパワー
蒲郡市生命の海科学館	<ul style="list-style-type: none"> 海の自然史に特化 行政サービス施設と同居 他分野への拡張志向 	<ul style="list-style-type: none"> Sciカフェ開催を希望 常勤職員マンパワー
豊橋市自然史博物館	<ul style="list-style-type: none"> 自然史に特化 学芸員等が常駐し説明可能 	<ul style="list-style-type: none"> Sciカフェ開催を希望 動植物園との連携
東山動物園	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員、ボランティア等が常駐し説明可能 屋外Sciカフェ実績あり 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤職員マンパワー
東山植物園	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員、ボランティア等が常駐し説明可能 実験教室等を継続開催 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤職員マンパワー

Sciカフェ活動の期待

	各機関の強み	各機関の課題
トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館	<ul style="list-style-type: none"> 産業遺産の実物展示 幅広いジャンルの展示 	<ul style="list-style-type: none"> 館内カフェへの集客 Sciカフェ開催に興味
丸栄 (デパート)	<ul style="list-style-type: none"> 催事場、屋上等のスペース 繁華街に所在 愛知県での知名度 	<ul style="list-style-type: none"> 業態の刷新 新規顧客の開拓 ワクワク感の醸成 常勤職員マンパワー
中部国際空港	<ul style="list-style-type: none"> イベントホール、ロビー、駐車場等のスペース 名鉄直結 	<ul style="list-style-type: none"> 旅客外の集客 動線外のカフェへの集客 Sciカフェ開催に興味 法的規制

Sciカフェ活動の現状



愛知県の地域的特徴から



愛知県の産業的特徴から

科学技術基盤産業が集積

広義のサイエンスの意識が希薄

企業科学館・企業博物館が多数存在

企業系館でSciカフェ開催希望あり

広義のサイエンスで連携が可能

いまこの時期だからできる連携

SC要素がある活動が多数

科学祭手法への興味を持つスタッフ

愛・地球博閉幕, COP10/MOP5は10月

JA2012等も10月

イベント月間のリソースとタイミング合致

あいち サイエンス・コミュニケーション・ネットワーク

SC人材育成の横串組織化が必要

Sciカフェ活動のシーズとニーズあり

広義のサイエンスで連携が可能

イベント月間のリソースとタイミング合致

新しいSCモデルへ

あいち サイエンス・コミュニケーション・ネットワーク

サイエンスへの偶然接触層の取り込み

サイエンス応援団層の活動基盤づくり

ウェブ活用による省力化

映像配信/ソーシャルネットによる活性化

コンパクトかつ効果的なSC手法

事務局/情報集約ウェブの構築

サイエンス・イベント情報登録機能

イベント情報検索・表示機能

研究者・SCマッチング機能

会場マッチング機能

Sciカフェ/フェス基盤を省力化ウェブで

SC人材育成

カリキュラム策定

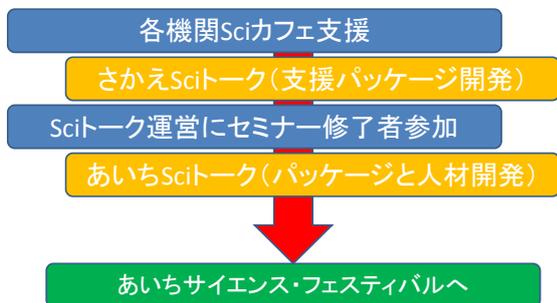
セミナー開講

Sciトーク運営に参画

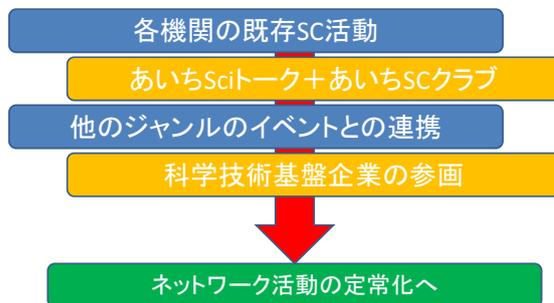
あいちサイエンス・コミュニケーター認定

あいちサイエンス・コミュニケーター・クラブ

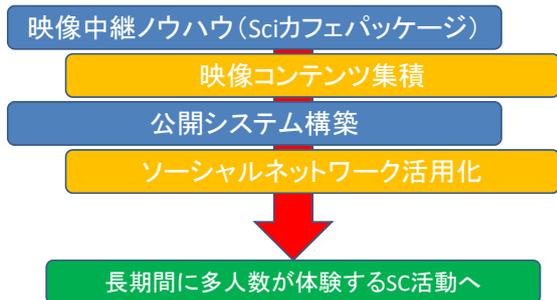
活動の場・仕組み～Sciカフェ



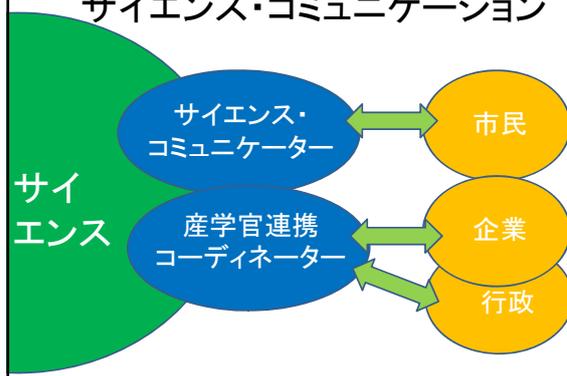
活動の場・仕組み～Sciフェス



アーカイブによる ロングテール型SC活動



産学官連携と サイエンス・コミュニケーション

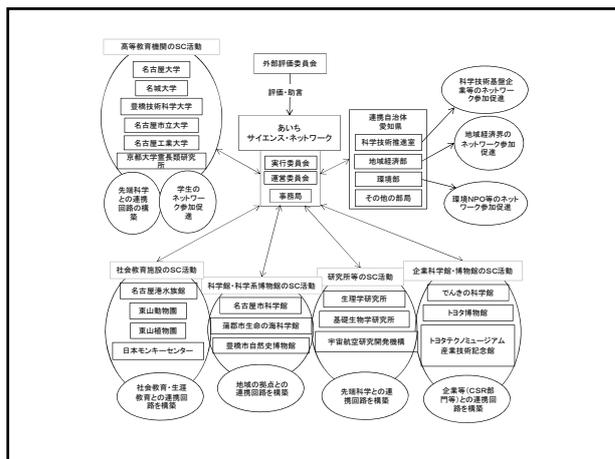
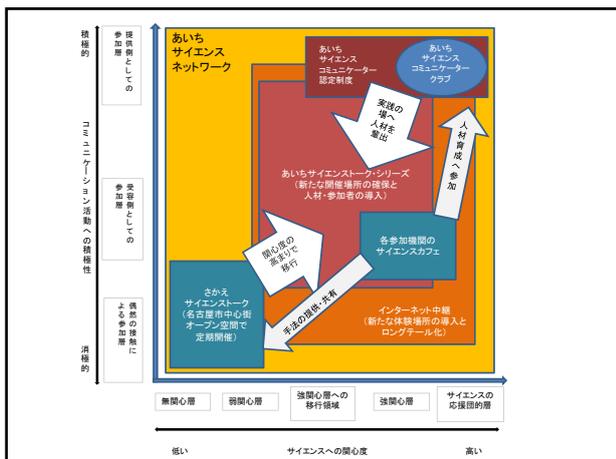


活動内容

	活動内容
ネットワーク拠点設立	•ネットワーク構築及び情報収集・発信拠点の設立
人材育成	•あいちサイエンス・コミュニケーター育成制度
場・しくみ作り	•あいちサイエンストーク・シリーズ •あいちサイエンス・フェスティバル
アーカイブ活動	•インターネット映像中継とウェブ上へのアーカイブ

3ヶ年度の計画

	2011年度	2012年度	2013年度
拠点設立	•事務局機能設立 •イベント登録ウェブ	•検索機能ウェブ	•事務局自立化計画 •マッチング機能ウェブ
人材育成	•カリキュラム検討	•名古屋市内で開講 •SST運営を開放 •コミュニケーター認定	•サテライトでも開講 •クラブ設立
場・しくみ作り	•Sciカフェ開催支援 •Sciトークを策で試行 •支援パッケージ開発	•Sciカフェ開催支援 •Sciトークを策で継続 •Sciトークを県内展開	•Sciカフェ開催支援 •Sciトークを策へ定着 •Sciトークを県外展開
	•ASF試行(名古屋)	•ASF本格開催 •他イベントと連携	•ASF継続開催 •ASF拠点設定
アーカイブ活動	•ネット映像中継試行 •映像コンテンツ集積	•公開システム構築 •ソーシャル化検討	•アーカイブの即時化 •ソーシャルネット化



提案・運営機関の体制

